

第2章 地域の概況

2.1 自然的状況

2.1.1 気象の状況

本市は、比較的温暖な気候で日照時間が長く、冬は強い季節風が吹き、春から初夏にかけて風は弱くなる。また、夏は雨が多く、冬は乾燥する典型的な太平洋側気候である。

事業予定地の最寄りの観測所である浜松特別地域気象観測所（事業予定地から北東に約 10km の地点）の 2022 年の気象観測結果を表 2.1.1 に示す。月別の平均気温及び降水量（2022 年及び平年値）を図 2.1.1 に、時間別の風向別出現頻度（2022 年）を図 2.1.2 に示す。また、浜松特別地域気象観測所の位置を図 2.1.3 に示す。

浜松特別地域気象観測所の気象観測結果では、2022 年の年間平均気温は 17.2℃であり、平年値より 0.4℃高かった。月別の平均風速は、2.6m/s～4.5m/s で、冬季に風が強い傾向にある。風向は西北西方向が最も多く、次いで西方向が多くなっている。

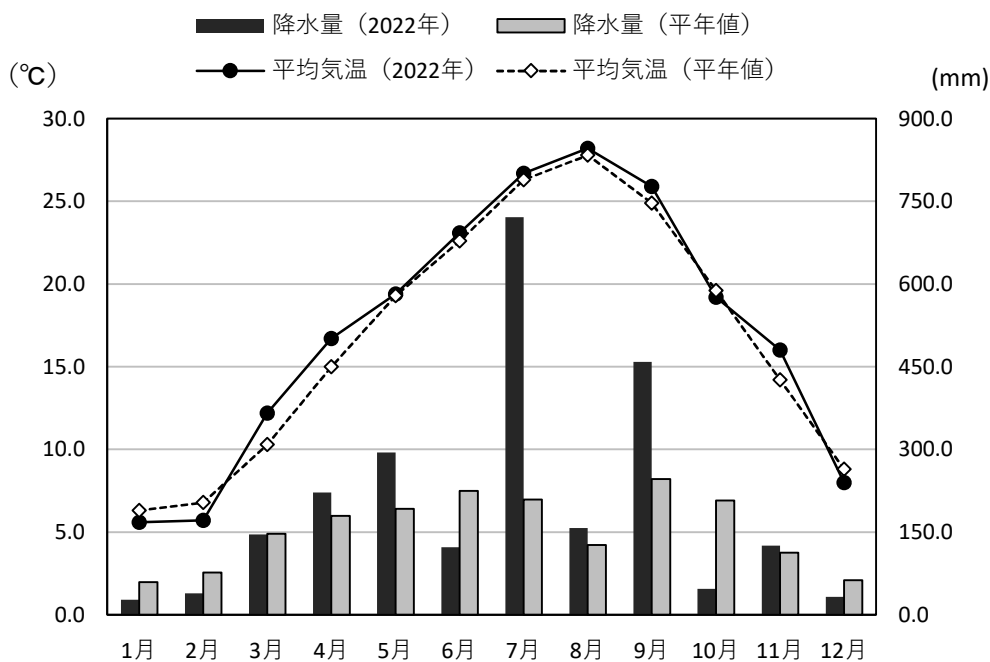
表 2.1.1 浜松特別地域気象観測所における気象観測結果（2022 年及び平年値）

月	平均気温（℃）		平均風速（m/s）		降水量（mm）	
	2022 年	平年値	2022 年	平年値	2022 年	平年値
1 月	5.6	6.3	4.2	4.3	27.0	59.2
2 月	5.7	6.8	4.4	4.5	39.0	76.8
3 月	12.2	10.3	3.9	3.9	145.5	147.1
4 月	16.7	15.0	3.4	3.9	222.0	179.2
5 月	19.4	19.3	3.2	3.4	294.5	191.9
6 月	23.1	22.6	3.3	3.3	122.5	224.5
7 月	26.7)	26.3	2.8)	3.3	721.0	209.3
8 月	28.2	27.8	3.1	3.2	157.5	126.8
9 月	25.9	24.9	3.2	3.0	458.5	246.1
10 月	19.2	19.6	2.6	3.1	47.0	207.1
11 月	16.0	14.2	3.1	3.3	125.5	112.6
12 月	8.0	8.8	4.5	4.1	32.5	62.7
年間	17.2	16.8	3.5	3.6	2,392.5	1,843.3

注 1) 平年値は 1991 年～2020 年までの 30 年間の統計によるものを示す。

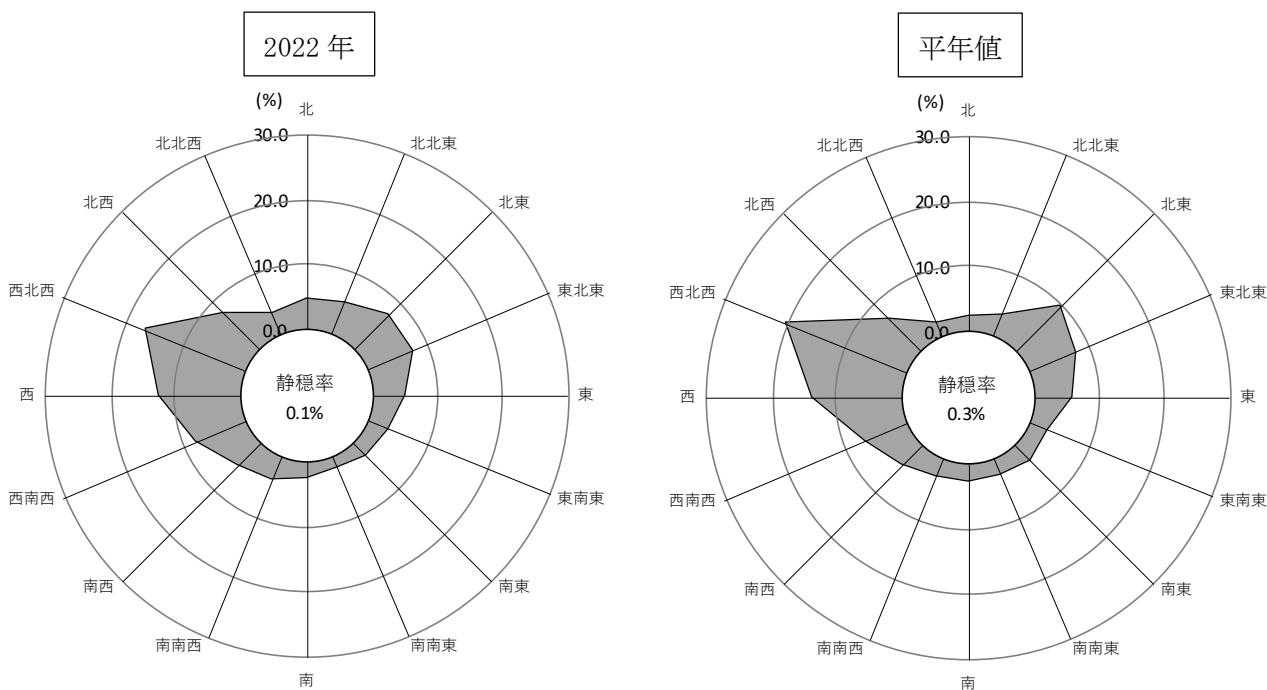
注 2) 表内の) は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けている（準正常値）値である。

出典：「気象庁ホームページ（気象統計情報）」



注) 平均気温及び降水量の平年値は1991年～2020年までの30年間の統計による。
「気象庁ホームページ(気象統計情報)」より作成

図 2.1.1 浜松特別地域気象観測所における月別の平均気温及び降水量(2022年及び平年値)

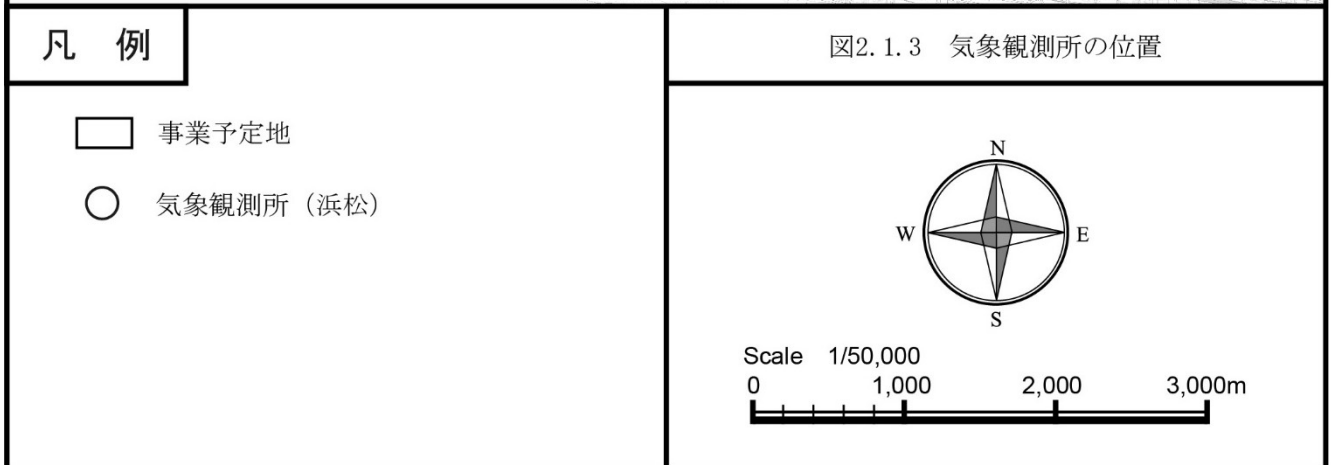
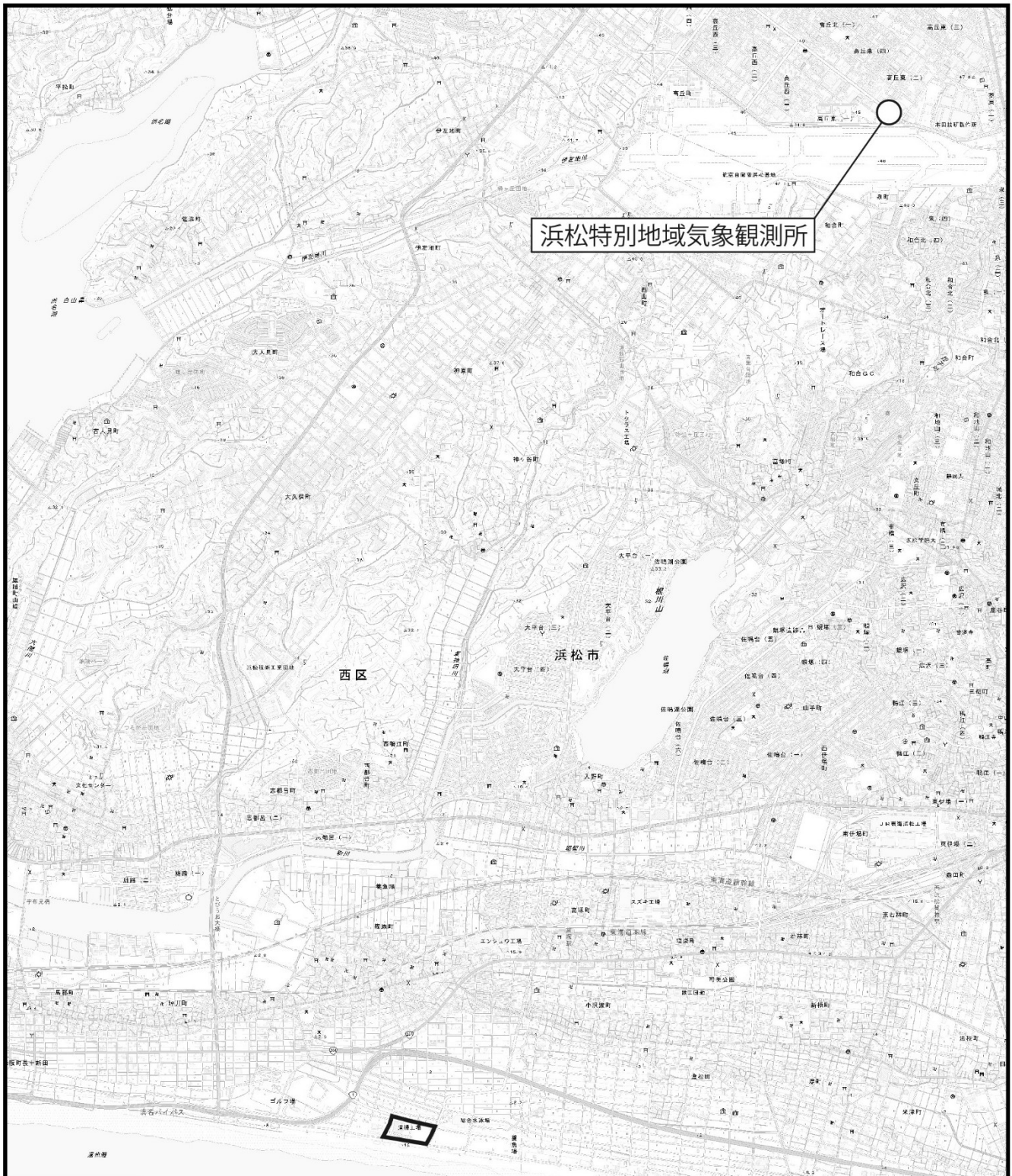


注1) 静穏率: 風速 0.3m/s 未満の風の割合。

注2) 風向別出現頻度の平年値は1991年～2020年までの30年間の統計による。

「気象庁ホームページ(気象統計情報)」より作成

図 2.1.2 浜松特別地域気象観測所における風向別出現頻度(2022年及び平年値)



この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に縮尺を変更して作成した。

2.1.2 地象の状況

事業予定地のある篠原町は本市の南部に位置し、南端は遠州灘の海域となっており、砂丘や砂州は遠州海岸砂丘地に区分される。西側に浜名湖、北側に佐鳴湖があり、浜名湖に注ぐ中小の河川沿いには小規模な低地が分布している。また、北側は三方原台地となっており、縄文海進時の海食崖が分布している。

「5 万分の 1 土地分類基本調査（浜松）説明書」によると、浜名湖西側の丘陵状の台地は、未固結の洪積層からなり、砂層と細粒礫層が大部分を占める。また、浜名湖東側の三方原台地は、上部は礫層、下部は内湾成の泥層からなり、礫層、泥層とも未固結である。浜名湖周辺の低地の地質は、一般に泥砂礫互層からなるが、中小河川下流部では泥質の軟弱な地層となっている。遠州灘沿岸の砂州・砂堆には砂質堆積物が発達するが、その後背地には泥質の湿地帯も分布している。

（1）地形

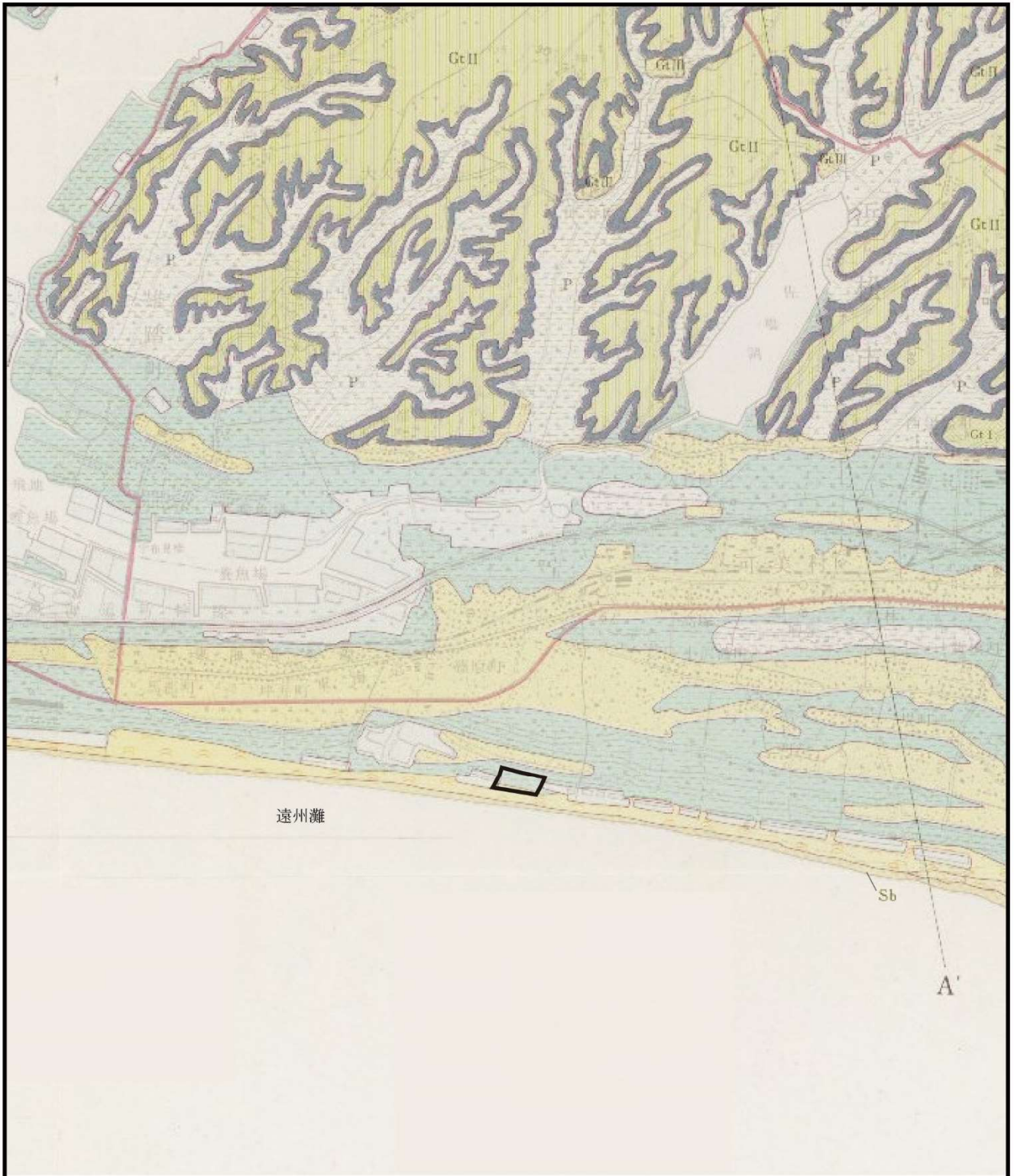
事業予定地及びその周辺における地形分類の状況を図 2.1.4 に示す。

「5 万分の 1 土地分類基本調査図 地形分類図 浜松」（昭和 48 年 3 月 静岡県）によると、事業予定地の地形は、湖岸低地、砂丘間低地または浜堤（旧砂丘列）に分類される。

（2）地質

事業予定地及びその周辺における表層地質の状況を図 2.1.5 に示す。

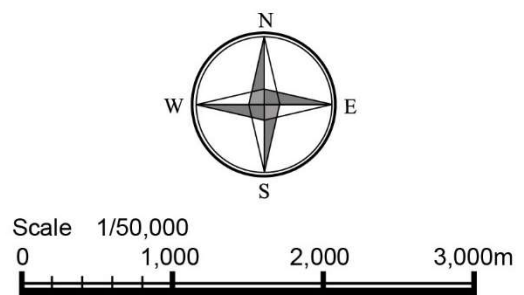
「5 万分の 1 土地分類基本調査図 表層地質図 浜松」（昭和 48 年 3 月 静岡県）によると、事業予定地の表層は、未固結堆積物（沖積平野）の泥砂礫互層または砂質堆積物に分類される。



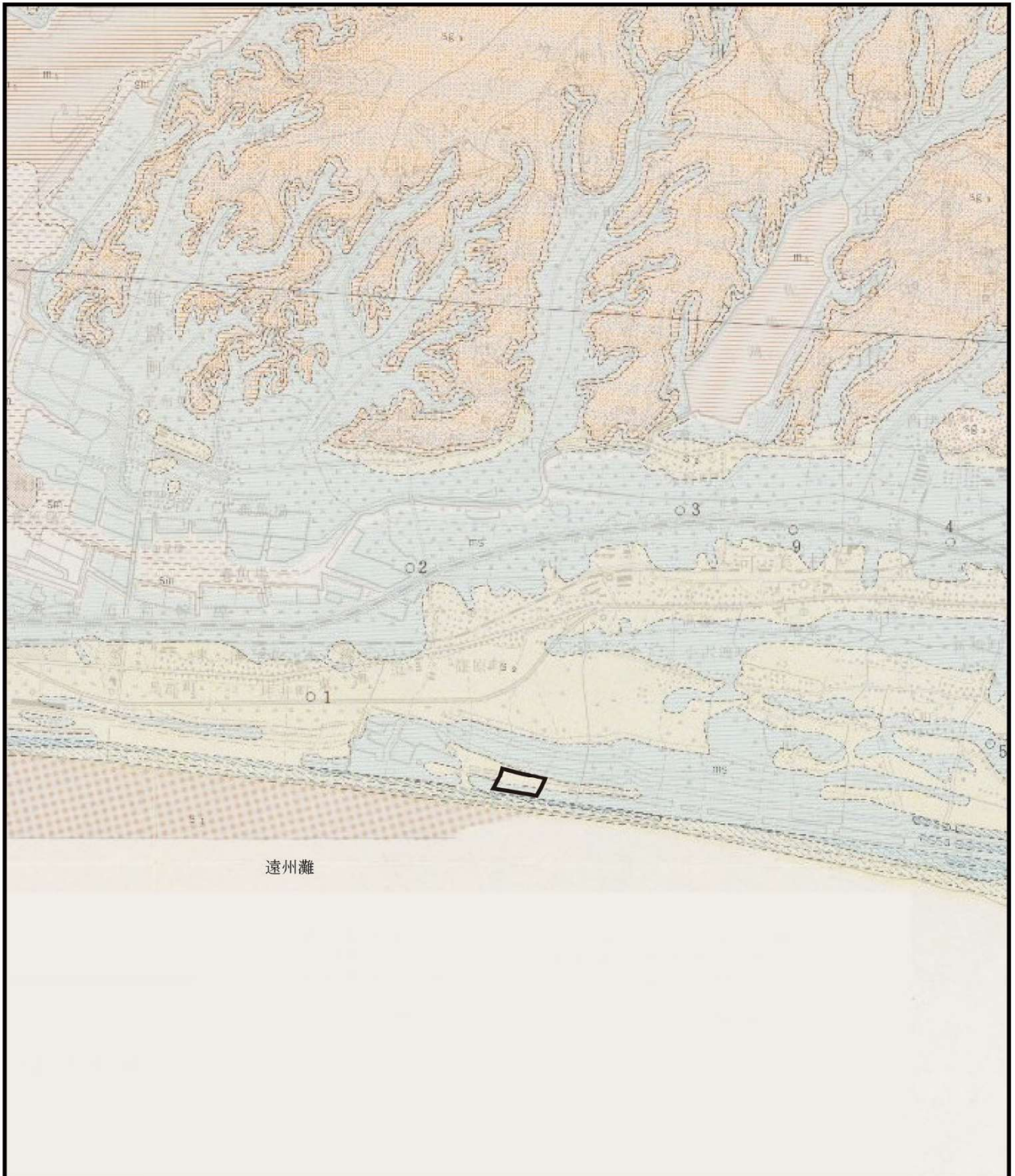
凡 例

- | | |
|----------------|------------|
| 事業予定地 | 湖岸低地、砂丘間低地 |
| 砂礫台地 I (高位面) | 浜堤(旧砂丘列) |
| 砂礫台地 II (中位面) | 被覆砂丘 |
| 砂礫台地 III (低位面) | 崖 |
| 谷底平野 | 養魚場 |
| 浜 | 湿地 |
| 国道、主要地方道 | |

図2.1.4 地形分類の状況



出典：「5万分の1土地分類基本調査図 地形分類図 浜松」(昭和48年3月 静岡県)

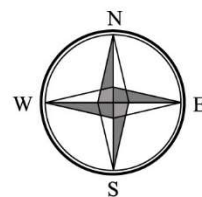


遠州灘

凡例

-  事業予定地
-  泥砂礫互層
-  砂質堆積物
-  泥
-  砂泥
-  砂
-  中位段丘砂礫堆積物
-  高位段丘泥質堆積物
-  高位段丘砂礫堆積物
-  沖積平野柱状地質断面図の地点と番号

図2.1.5 表層地質の状況



Scale 1/50,000
0 1,000 2,000 3,000m

出典：「5万分の1土地分類基本調査図 表層地質図 浜松」（昭和48年3月 静岡県）

2.1.3 水象の状況

(1) 河川、湖沼

事業予定地周辺の北側に篠原川が流れており、北西側で新川に合流している。また、西側に浜名湖、北側に佐鳴湖がある。

事業予定地周辺の主な河川の概要を表 2.1.2 に、主な湖沼の概要を表 2.1.3 に示す。また、主な河川及び湖沼等の状況を図 2.1.6 に示す。

表 2.1.2 主な河川の概要

水系名	河川名	種別	河川延長 (m)
都田川	旧新川	二級	1,600
	新川	二級	13,830
	九領川	二級 (市管理)	3,500
	堀留川	二級	4,060
	東神田川	二級	5,610
	段子川	二級 (市管理)	5,170
	権現谷川	二級 (市管理)	3,400
馬込川	篠原 15 号排水路 (西部排水路)	普通	3,100
	新橋 1 号排水路 (高塚川)	普通	3,170

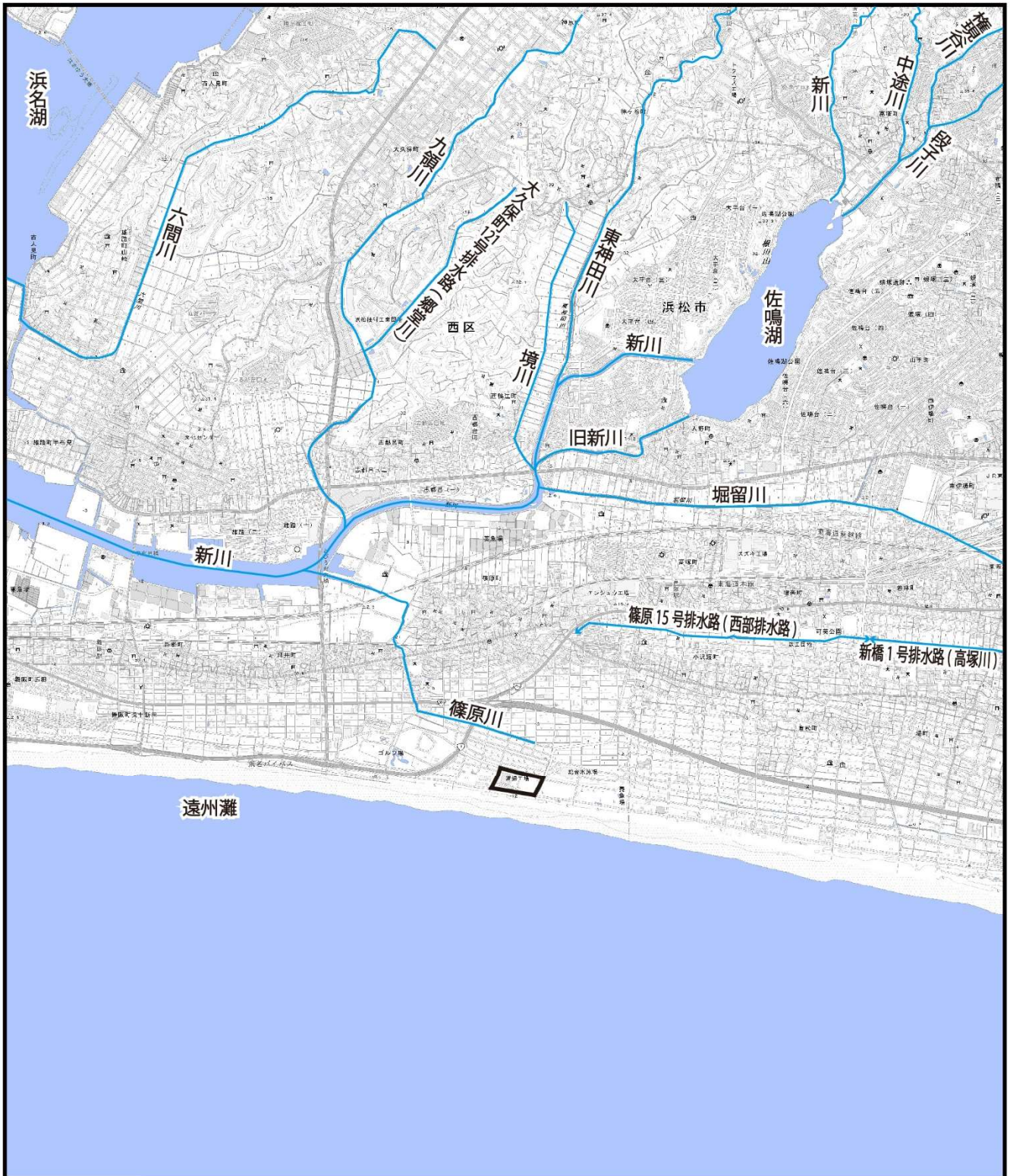
出典：都田川水系：「しずおか河川ナビゲーション」(静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課)

馬込川水系：「流域の概要および被害状況」(浜松市ホームページ)

表 2.1.3 主な湖沼の概要

湖沼名	淡・汽水区分	面積 (km ²)	水深 (m)		湖岸線延長 (km)	自然公園・保全地域指定状況
			最大	平均		
浜名湖	汽水湖	65.00	16.6	4.8	113.80	浜名湖 (県立)
佐鳴湖	汽水湖	1.18	1.9	1.4	5.30	—

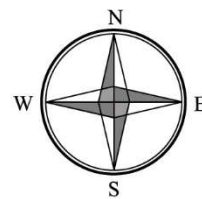
出典：「日本の湖沼環境Ⅱ」(平成 7 年 1 月 環境庁自然保護局)



凡 例

 事業予定地

図 2.1.6 主な河川及び湖沼等の状況



Scale 1/50,000
 0 1,000 2,000 3,000m

この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に縮尺を変更して作成した。

(2) 海域

事業予定地の南側に太平洋の遠州灘海域がある。

遠州灘沿岸の海域は、水深 20m 以浅の等深線が海岸線から約 2～3 km 程度離れてほぼ平行に位置しており、比較的遠浅となっている。

事業予定地周辺の遠州灘浜名湖沖における水質測定の結果を表 2.1.4 に示す。

表 2.1.4 遠州灘浜名湖沖海域の水質測定結果（令和 4 年度）

項目	単位	平均値	最小値～最大値	環境基準 (達成○、未達成×)
水素イオン濃度 (pH)	—	8.3	8.2～8.3	○
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	1.3	1.0～1.6 (75%値：1.4)	○
溶存酸素 (DO)	mg/L	7.7	7.0～8.5	×
大腸菌数	CFU/100mL	4	1 未満～6 (90%値：6)	○

出典：「令和 4 年度 浜松市の環境測定結果」（令和 5 年 9 月 浜松市環境部環境保全課）

(3) 地下水

本市の地下水位は、西遠地域地下水利用対策協議会と本市が管理する地点で自動水位計により観測を行っており、事業予定地周辺では、篠原中学校と蜷塚中学校の 2 ヶ所に観測井が設置されている。各地点における経年変動を表 2.1.5 に、観測位置を図 2.1.7 に示す。

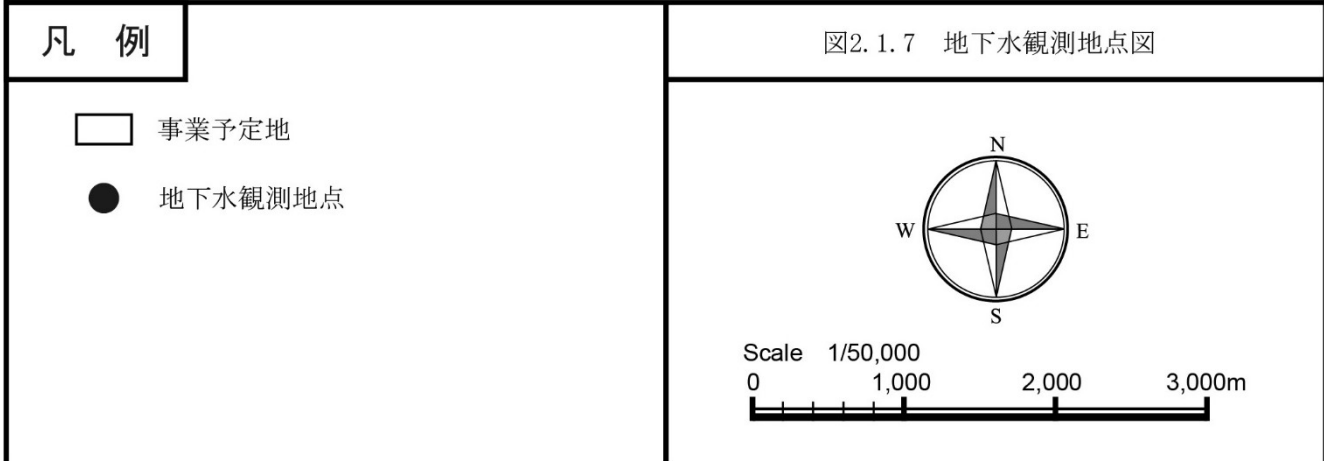
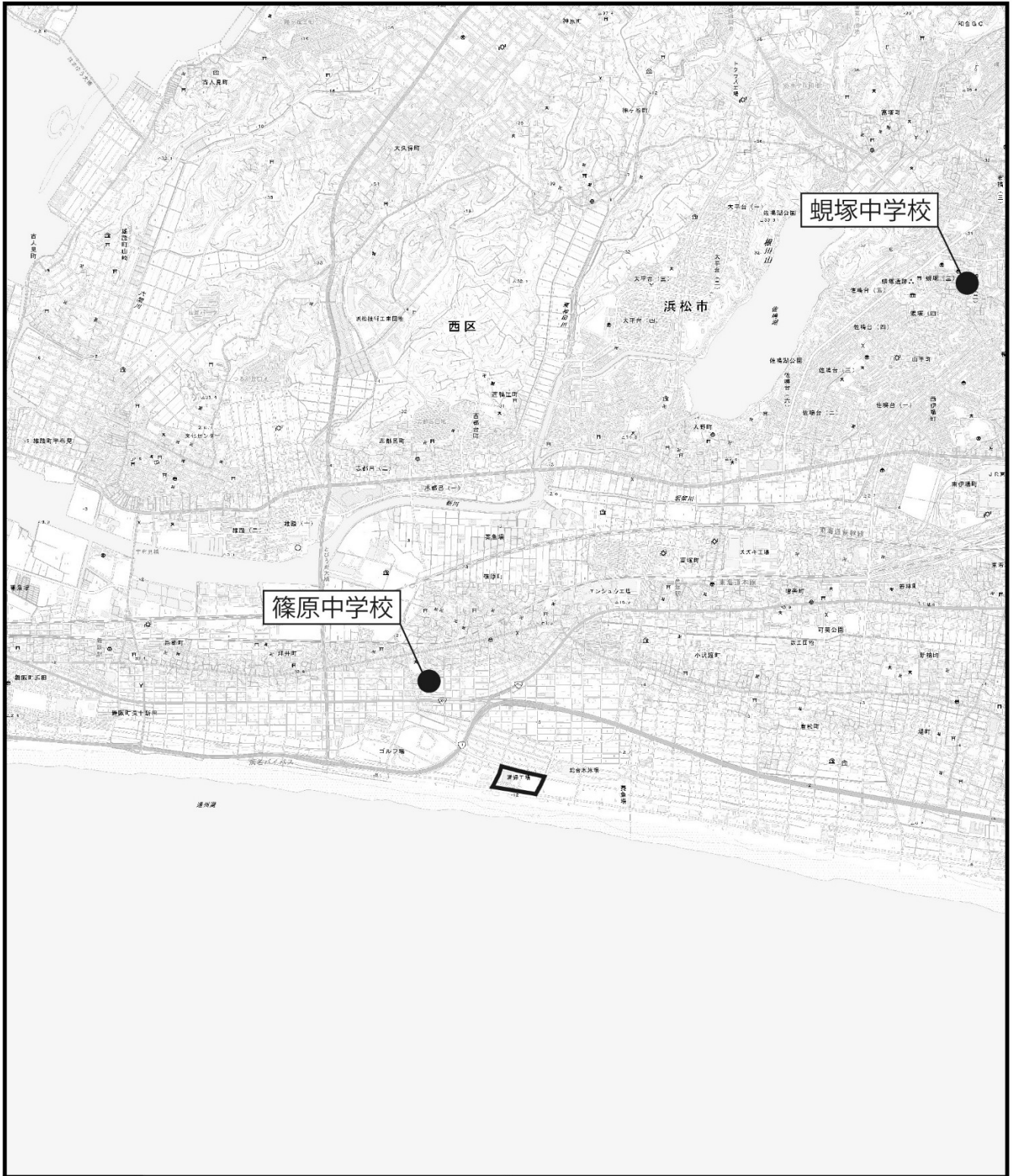
本市の地下水位は、高度成長時代の過剰な汲み上げにより、一時は低下したが、近年は回復傾向にある。令和 3 年の地下水位の観測結果は、篠原中学校と蜷塚中学校ともに測定を開始した年と比較して上昇している。なお、地下水位は、一般に降雨量の影響を受けて変動する可能性があり、浜松特別地域気象観測所の観測による平成 30 年から令和 3 年の年間降水量は平年値（平成 3 年から令和 2 年までの 30 年間の平均値）をいずれも上回っている。

表 2.1.5 地下水位の経年変動（年平均値）

単位：海拔標高 (m)

観測箇所	観測開始年 (水位)	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
篠原中学校	昭和 43 年 (-3.60)	1.40	1.43	1.69	1.72	1.92
蜷塚中学校	平成元年 (1.04)	2.66	2.70	2.74	2.80	2.78

出典：「令和 3 年の地下水位観測結果」（浜松市ホームページ 地下水位観測結果）



この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に縮尺を変更して作成した。